



2021年9月30日

豊岡市長 関貫 久仁郎 様

豊岡市公営企業審議会
会長 山口 隆英

今後の水道料金・下水道使用料のあり方について（答申）

2021年4月26日付け、豊水第15号・豊下第15号で諮問のあった今後の水道料金・下水道使用料のあり方について、本審議会において慎重に審議した結果、次のとおり結論を得たので答申します。

1 はじめに

豊岡市は、2005年4月1日の市町合併により発足し、県下最大の面積697.55 k m²を有する。現在の人口は8万人弱で、広大な市域には数多くの上下水道施設が点在している。

本市の上水道は、全域をひとつの水道事業（6給水区）として経営しており、2020年度末現在、普及率は99.9%に達している。

また、下水道は、地域の特性に応じた整備が進められ、2020年度末現在、普及率は99.3%に達し、水洗化率は94.6%となっている。

上・下水道とも、人口減少等に伴って料金・使用料収入が減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くと予測される。

その一方で、過去に集中的に整備した施設や管路の老朽化が進み、一斉に更新時期を迎えつつあり、さらに、耐震化等、災害に備えた整備を進める必要があるなど、今後、必要な経費は増大していく見通しである。また、これまでの施設整備のために借り入れた企業債の償還金が経営の負担となっているなど、厳しい状況が続くと見込まれる。

上・下水道は、安全・安心な市民生活や企業活動に必要不可欠なライフラインであり、事業を将来にわたって安定的に継続していかなければならない。

そのためには、適正な料金・使用料の設定とともに、徹底した事務事業の効率化により経営の健全化に取り組む必要がある。

2 答申

(1) 水道料金

水道事業については、2011年に平均改定率19.8%の料金改定を行ってから10年が経過している。この間の料金収入は水需要とともに減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くと予測される。また、近い将来、施設の大量更新期を迎えるなど、事業に必要な経費は今後増大していく見通しであり、より厳しい状況になると見込まれる。

さらに、特筆すべき事項として、企業債償還の財源確保の問題がある。現行の料金水準では償還のための資金を十分に確保しているとは言い難く、将来の施設等の更新のために事業の内部に留保すべき資金を返済に充てている状態となっている。このままでは、施設等の更新時に必要な資金が不足し、その多くを借入金に求めざるを得なくなり、将来の世代に負担を先送りすることになると懸念される。

水道は、生活に欠くことのできない極めて重要な生活インフラであることから、将来にわたってサービスを提供し続けるために、また、できる限り現役世代と将来世代の負担の公平性を確保するためには、料金の見直しが必要である。

料金の見直しにあたっては、「適正な原価に基づく料金算定」を前提とし、「安定した料金収入の確保」、「需要者間の負担の公平性」、「世代間の負担の公平性」等を総合的に考慮することが必要である。

なお、この度の審議において、生活困窮者等に対する配慮の必要性について検討したが、公共料金は受益に応じた公平な負担を求めべきという観点から、特定の使用者に対する配慮をするものではなく、支援が必要な者に対しては別の施策によることが適切と考える。

新型コロナウイルス感染症により経済的影響を受けた使用者に対しても、同様の考えである。

ア 料金算定の期間は、2022年度から2026年度までの5年間とし、その期間の資料をベースに総括原価により算定すること。

イ 総括原価には、給水サービス水準の維持向上及び施設実体の維持のため、資産維持費を含めることとし、資産維持率は年0.5%とすること。

ウ 料金体系は、基本料金と従量料金の二部料金制とし、料金総収入に占める基本料金収入の割合を3分の1程度とすること。

エ 従量料金は逓増制とするが、大口需要者への依存をできるだけ小さくするため、少量の区分を見直すこと。その見直しは、逓増度が3.00以下（現行3.33）となるものが望ましい。

付属資料として、審議会において検討した料金表を添付するので参考とされたい。

(2) 下水道使用料

下水道事業については、2016年に平均改定率11.3%の使用料改定を行っている。また、現在、施設の長寿命化、統廃合事業を着実に進めていることもあり、2022年度から2026年度の5年間は概ね安定した経営が可能な見通しであることから、現行の下水道使用料を据え置くことが適当である。

3 付帯意見

今回の諮問事項に対する答申は前述のとおりであるが、審議会における審議経過を踏まえ、次のとおり意見を付することとしたので、今後における事業運営にあたり配慮されたい。

(1) 共通

ア 人口減少等に伴い料金・使用料収入が減少していくことが確実に予測されるなかで、将来にわたって安定して事業を継続するためには適正な料金・使用料収入の確保が不可欠である。今後も5年ごとに料金・使用料のあり方について検討することが適切であると考え、安易に値上げを求めることのないよう、絶えず徹底した経費縮減、経営の効率化、健全化に努めなければならない。

そのためには、中長期的な視野に立った計画的な経営が必要である。早期に「経営戦略」の見直しを行い、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組むこと。

イ 事業に対する理解が得られるよう、市民や使用者の視点に立った、分かりやすい情報発信に努めること。

(2) 水道事業

ア 近い将来、施設の大量更新期を迎えるにあたり、施設・設備の長寿命化等により更新費用を抑えるとともに、更新費用の平準化を図ること。また、将来の水需要の減少を踏まえ、既存施設・設備の廃止や統廃合等に取り組み、過剰な投資は厳に慎むこと。

イ 将来の負担を軽減するため、企業債借入額の抑制を図ること。

ウ 水道管の適切な維持管理及び計画的な更新を行い、有収率の向上を図ること。

エ 経営基盤の強化、経営効率化等の観点から、事業の広域化について検討すること。

オ 遊休資産の有効活用等、料金収入以外の収入の確保について検討すること。

カ 今後、人口減少により、過疎化がより進む地域が増えることが懸念される。水道事業は、生活に欠くことのできない極めて重要な生活インフラであり、サービスを提供し続ける必要があるため、現行に代わる新たなサービス提供方法等の可能性について検討す

ること。

キ 答申では基本料金の割合を上げることとしているが、その趣旨について使用者の理解を得られるよう、十分な説明を行うこと。

また、使用者からの相談等には、親切、丁寧な対応に努めること。

ク 新型コロナウイルス感染症については、市民生活や市内経済が大きな影響を受けていることを考慮し、新料金の適用にあたっては、市民生活や市内経済の動向を注視し、適切な改定時期とするよう検討されたい。

(3) 下水道事業

ア 下水道の水洗化率の伸びが頭打ちとなっているが、下水道への接続を促し、下水道使用者を増やすことは、使用料収入の増加だけでなく、周辺の公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全にも繋がる。

未接続の世帯や施設に対して、これまでの取り組みに加え、新たな方策などを検討し、未接続の解消に一層努めること。

イ 今回の使用料算定期間では、使用料収入は減少傾向であるものの、処理区の統廃合事業による施設の維持管理費の削減や長寿命化事業も含めた投資事業の平準化等により、経営状態は概ね良好に推移する見込みとなっている。

しかし、これまでの施設整備時に借り入れた企業債の残高は未だに大きく、これ以上残高を増大させることは、経営を圧迫させる要因となる。過剰な投資は厳に慎み、企業債の借り入れを必要最小限に留めること。

ウ 2031年度以降、単年度損失が発生する等、経営状態が厳しい状況になる見通しとなっている。

より一層の経費削減に努めるとともに、次回の検討までに経営改善の施策を検討すること。

付 属 資 料

資料 1 豊岡市公営企業審議会委員名簿

資料 2 審議経過

資料 3 審議会で検討した料金表

資料 4 諮問書

豊岡市公営企業審議会委員名簿

会 長	山 口 隆 英
副会長	坂 本 昇 造
委 員	井 垣 真 紀
委 員	作 花 尚 久
委 員	都 築 洋一郎
委 員	長 坂 和 枝
委 員	長 田 徹
委 員	勾 田 勝 久
委 員	宮 下 えりか
委 員	米 田 英 昭

(敬称略)

審 議 経 過

回数	開催日・場所	審議事項
第 1 回	2020年11月18日（水） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・上下水道事業の現状と課題 ・事業の概要及び現状について ・今後の見通し
第 2 回	2021年 4 月26日（月） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・諮問「今後の水道料金・下水道使用料のあり方について」 ・上下水道事業会計のしくみ ・料金等の算定方式 ・水道料金・下水道使用料の現状 ・収支見通し（水道事業・下水道事業）
第 3 回	2021年 6 月 7 日（月） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・収支見通し（下水道事業・水道事業） ・総括原価の算定
第 4 回	2021年 6 月25日（金） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・水道事業における経費削減の取り組み ・収支見通し（水道事業） ・総括原価と資産維持費等について ・資産維持率の設定について
第 5 回	2021年 7 月19日（月） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・総括原価の分解、配分、配賦 ・答申について
第 6 回	2021年 8 月11日（水） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・総括原価の配賦
第 7 回	2021年 9 月 7 日（火） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・総括原価の配賦 ・答申について
第 8 回	2021年 9 月16日（木） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・答申について
第 9 回	2021年 9 月30日（木） 市役所本庁舎 2 階 大会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・答申「今後の水道料金・下水道使用料のあり方について」

審議会 で検討した水道料金表

区分		現行単価	改定単価 (案)	現行単価 との比較	
基本料金 (1月当たり)	メーター口径	13mm	704 円	1,056 円	+352 円
		20mm	1,408 円	2,090 円	+682 円
		25mm	2,860 円	4,257 円	+1,397 円
		40mm	10,010 円	14,850 円	+4,840 円
		50mm	15,620 円	23,210 円	+7,590 円
		75mm	40,700 円	60,830 円	+20,130 円
		100mm	77,000 円	114,950 円	+37,950 円
従量料金 (1 ³ m ³ 当たり)	使用水量	1~10 ³ m ³	66.0 円	82.5 円	+16.5 円
		11~20 ³ m ³	132.0 円	137.5 円	+5.5 円
		21~30 ³ m ³	137.5 円	143.0 円	+5.5 円
		31~50 ³ m ³	154.0 円	154.0 円	
		51~100 ³ m ³	214.5 円	214.5 円	
		101 ³ m ³ ~	220.0 円	220.0 円	

※単価には消費税(10%)を含む。

豊水第15号
豊下第15号
2021年4月26日

豊岡市公営企業審議会
会長 山口隆英様

豊岡市長 中 貝 宗 浩



今後の水道料金・下水道使用料のあり方について（諮問）

水道・下水道は、市民生活を守るライフラインであり、安全で安心な飲料水を安定供給し、また、環境にやさしい水循環システムと快適な暮らしを確保するための重要な役割を果たしています。

近年の上下水道事業を取り巻く状況は、人口減少や節水機器の高性能化などにより水需要が減少傾向にあることから、現有施設の規模の適正化や効率的な運用を図り、将来にわたり持続可能な経営基盤を確立することが急務となっています。

このような中、中長期的な経営の基本計画として、水道事業は2018年に、下水道事業は2017年に、それぞれ「経営戦略」を策定しました。

「経営戦略」では、事務の効率化や投資の合理化を図ってもなお財源が不足することが見込まれており、持続可能な経営基盤の強化を図るためには両事業とも適正な料金水準の確保が必要であり、特に水道事業においては2021年度と2026年度に料金改定を行う計画としています。

つきましては、今後の水道料金・下水道使用料のあり方について、多角的な視点からご審議いただきたく、貴審議会に諮問いたします。